

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年7月11日

【評価実施概要】

事業所番号	4070402724
法人名	株式会社 フジケア
事業所名	グループホーム高峰
所在地 (電話番号)	北九州市小倉北区高峰町3番3号 (電 話) 093-562-1115
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成 20年 5月 31日

【情報提供票より】(平成20年4月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 2月 1日				
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人	
職員数	13 人	常勤	10人, 非常勤	5人, 常勤換算	12.5人

(2) 建物概要

建物形態	併設 ☒ 単独 ☐	☒ 新築 ☐ 改築
建物構造	耐火建築 造り	
	4 階建ての	2 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円		その他の経費(月額)	20,000 円	
敷 金	有(円)			無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円) 無		有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり		1,167 円		

(4) 利用者の概要(平成20年4月30日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79.2 歳	最低 72 歳	最高 99 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	有田クリニック、たつのおとしごクリニック、田辺内科精神科医院、末松歯科
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

交通便利な市街地にある4階建ての複合施設である。1階はデイサービス・訪問看護ステーション、2階・3階はグループホーム、4階は 居宅介護支援事業所となっている。それぞれの事業所には専門的な知識を有する職員がおり、一人ひとりの個性を尊重し、安心して暮らせる生活の場となっている。管理者と職員とのミーティングや内部研修が頻回に行われており、実践に向けての取り組みがうかがえ、質の向上につなげている。入居者に対して日ごろから健康状態を把握し、病状が重度化した利用者に対しても、医療との連携や専門的な医療の対応・看取りについての対応など本人・家族が望む体制となっている。毎月、ホーム利用者やその家族、及び併設のデイサービスの利用者や地域住民と一緒に行事を展開し、気軽に集うことの出来る地域に開かれたサービスを目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題として避難訓練のことがあげられていたが、現在は定期的に訓練が行われており、避難場所等の確認が職員にも出来ていた。職員の育成については常に話し合いや内部研修を行って質の向上に努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価・外部評価の結果を回覧し、重点事項等について話し合い、サービスの質の向上に努めている。職員も評価の意義を理解している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は利用者・利用者の家族・町内会長・保健師・法人副社長・管理者・看護師が参加し、入居者の状況・レクリエーション・職員の状況・事故・医療・外部評価結果や実施状況等を報告し、それについての意見をもらい、対応策を報告するようにしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	玄関に意見箱を設置しているが、今まで利用されることはなかった。面会時を利用して家族から積極的に話を伺うようにしている。そのほか、個別での電話報告をしながら家族の意見や苦情等を言いやすいように努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の方が気軽に集うことが出来るよう、夏祭り・カラオケ大会・そば打ち会等の行事や、近くの小学生の訪問受け入れなど開かれたホーム作りに努めている。地域での関係が広がるよう、積極的に挨拶等を行い交流を図っている。近隣の高等技術専門校の実習の受け入れも行っている。

2. 調査結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念	一人一人の個性を尊重し、新しい生活の場の提供を行い、本人・家族・地域の笑顔を大切に共に支えあう地域づくりに貢献し、人とのふれあいを大切にするという内容の、事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に理念を掲示し、職員は常に意識している。日々の申し送りやミーティング・ケアカンファレンス等で話し合いが重ねられ、理念が共有されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣のコンビニエンスストアや入居者が利用する理髪店など地域の人々へ積極的に挨拶をしている。季節の行事や地域で開催されるイベント等に参加し地域の人との交流する機会を持っている。また、地域の人々がホームでの行事にも参加してもらえるように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員は自己評価、外部評価を行う意義の理解ができており、ミーティングの中で話し合い、重点事項等を取り上げサービスの質の向上に努めている。家族にも評価結果を配布している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の状況や職員の状況・ホームの行事の実施状況・外部評価等の報告をし、率直な意見などをもらい、それに対する対応策などについて次会議で報告し、サービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村からの講師依頼等を受けており、相互に認知症の理解を深め、サービスの質の向上に取り組む為に常に行き来する機会を設けている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護制度を利用されている入居者が現在4名いる。家族がいない利用者に対し、権利擁護事業等の必要性を説明する機会を設けている。契約時に本人・家族へ権利擁護事業の利用を活用できることを話している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には、健康状態やホームでの暮らしぶり等を報告したりしており、電話での報告も行なっている。毎月、現金の収支を出納帳に記入し、家族に確認の押印をもらっている。グループホーム高峰通信を送付時に入居者の写真を同封し近況報告も行っている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話での報告時には、家族が気軽に意見・不満・苦情等が言えるように気を配っている。玄関に意見箱を設置し、いつでもそれらを運営に反映させる体制は整っている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同じグループホームのフロア内での異動はあるが、日頃より交流が行われているため、顔なじみの関係が出来ている。離職等についてはダメージを最小限に防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、年齢や性別を理由に採用から排除していない。現職員に対しては、個々の能力が発揮できるよう、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティングやケアカンファレンスを行い、入居者に対し常に人権の尊重を意識して取り組んでいる。運営者はOJTシートにて対人援助技術の基本的態度等のチェック等を行い、職員全員が人権に対しての気づきにつなげるように取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々のミーティングやケアカンファレンスの中での気づきや話し合いをもとに、内部研修が頻回に行なわれている。新人職員には特に、リスクマネジメントや虐待防止について学んでもらっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者が認知症フォーラムの実行委員長を受諾しており、その活動を通じて他の事業所とは交流する機会があるが、職員が交流する機会は設けられていない。今後、グループホーム協議会の入会や他の事業所との交流を図っていきたいと思っている。	○	今後は職員が他の事業所と交流する機会をつくり、サービスの質の向上に活かせるよう積極的な取り組みを期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して入居できるように、自宅へ何回か訪問し、家族との面談・相談を行なう中で本人の生活歴等を把握している。馴染んでいただけるような環境づくりを、家族の協力を得ながら行っている。		
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と一緒に調理をしながら、食材のきり方を学んだり、昔の面白い話を聞いて一緒に笑ったり、レクリエーションを楽しんだりしている。家族の一員として一緒に過ごしながら時間を共有し、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示ができない方は、表情・様子か気持ちを察するようにしている。家族からの情報等も含め本人の立場に立った意見を出し合い、日々検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を第一に利用者主体の介護計画を他種職の意見も取り入れ作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の見直しを行っている。状況変化があった時などは、ミーティングで話し合いを行いその都度見直しを行なっている。退院後などは、必ず家族の希望も含め、医師・看護師・各関係者からの情報を活かして、現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を整えており、体調管理は十分に行っているため、本人や家族の安心を得ている。理美容院への送迎をしたり、困難な場合には出前サービスを利用している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医がいれば、本人・家族の希望を伺い受診ができるよう支援している。事業所の協力病院に受診を変更されても、協力病院の特徴等を説明し、納得を得られるように努めている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化された場合や終末期のケアについては入居時に家族へ説明を行っている。終末期の利用者に対し安心・安全の確保を行えるよう家族・医師・看護師と密に連携を取り、状況に応じ速やかな対応ができるよう情報の共有化を図っている。看取り体制の緊急連絡表も作成している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報事務所の書棚の中に保管している。個人情報保護についてのマニュアルも作成している。職員の利用者への言葉遣いは個別に指導している。毎日のミーティング等でも必要に応じて取り上げている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の大まかなスケジュールはあるが、その日の状況をみて、スタッフが臨機応変に対応し個々のペースにあわせ、その日に決めている。洗濯を手伝ったり、買い物に行ったり、縫い物をしたり、調理を手伝ったり、利用者の性格や特技を活かした支援をしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事の食材は、栄養が計算されている宅配を利用している。準備・調理・食事・後片付けは、利用者と職員が一緒になって行っているが、職員の食事は持参した弁当等である。行事食や外食を取り入れるなどして食事を楽しくするための工夫をしている。おやつも協同で作っている。	○	「一緒に暮らす」というグループホームの特性を踏まえて、利用者と職員が「同じものを同じ食卓で」食べるという取り組みが期待される。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人一人好みの時間帯で入浴ができるようにしている。入浴を拒む利用者へは入浴を促すような声かけを工夫している。常に衣類着脱・移動・洗身等の声かけを行い安全・安楽に入浴して頂けるよう配慮している。基本的には同性介助としているが、異性介助の際は羞恥心への配慮を重視している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活暦・本人の得意なことを毎日のケアの中で把握し、一人一人の能力が発揮できるような支援を行っている。縫い物の得意な方には縫い物をしていただき、料理の得意な方には食事作りを一緒にして頂くなどして、その方が生き生きとできるよう支援を行っている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の美容室へ行く、買い物へ行く、散歩へ行くなど状態に合わせて外出の支援をしている。外出の困難な方でも屋上でおやつや食事を摂ったり、建物周囲の短距離での散歩等、事業所内だけでの生活にならないよう支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けていない。利用者に落ち着きが見られないときは、職員の声かけ・目配りで対応している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	年に2回、利用者も一緒に避難訓練を行っている。設備点検も定期的に行われている。連絡網は壁に貼っており、一目でわかるようになっている。運営推進会議にて地域との交流や関係作りを行い、対策についてもお互いに協力体制をとるようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分量のチェックを行って表にしており、職員が把握しやすい形態になっている。一人一人の嗜好を把握し本人の状態に合わせた食事を提供している。食材は業者に発注しており、栄養士がカロリー計算を行っている。利用者の水分量が少ないときなどは主治医に連絡を取るなどして医療との連携も図っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間より廊下・台所・食堂が一目で見渡せ明るい空間になっている。トイレ・浴室などもバリアフリー化され、安全性・利便性に配慮された構造になっている。居間でテレビを観ている利用者がいたり、ソファに座って歌を唄っている利用者がいたり、昼食の準備の音、料理の煮えるにおいがしたりと家庭的な雰囲気である。テーブルには生花が飾ってあり季節感をだしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、御家族と相談し馴染みの物を持ってきていただくよう提案している。一人一人の生活スタイルに合わせて馴染みの物や仏壇などが置いてあったりと、利用者の居心地の良さに配慮している。		